

■ 第 57 回 北海道開発局空港技術研究会議の開催

北海道開発局 港湾空港部 空港・防災課

平成 30 年 10 月 10 日(水)札幌第 1 合同庁舎 2 階講堂において、第 57 回北海道開発局空港技術研究会議が開催され、空港管理者、研究機関、建設・舗装会社、建設コンサルタントなど道内外からおよそ 100 名の方にご参加いただきました。

本技術研究会議は、空港整備に携わる担当者の技術の研鑽などを図る目的として昭和 37 年度から毎年開催され、今年で 57 回目の開催となりました。

会議開催にあたり、北海道開発局眞田港湾空港部長から、「9 月 6 日に発生した北海道胆振東部地震で希にみる揺れに襲われた新千歳空港において、滑走路及び誘導路等の基本施設に被害はなく、翌日から航空機の運航を再開することができた。北海道開発局として、北海道の復興に向け全力で取り組む。」との挨拶で始まりました。

発表件名		発表者
特別講演	13:50 ~ 14:30 高松空港の今後の計画について	高松空港株式会社 金盛 将和
発表 1	14:40 ~ 15:05 当事者意見を取り入れたユニバーサルデザインに配慮した施設計画のあり方	成田国際空港株式会社 空港運用部門 施設保全部 建築グループ 上野山 裕之
発表 2	15:35 ~ 16:00 積雪寒冷地におけるコンクリート舗装の設計	国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所 寒地道路保全チーム 上野 千草
発表 3	16:10 ~ 16:35 釧路空港における滑走路端安全区域 (RESA) の整備概要について	北海道開発局 釧路開発建設部 釧路港湾事務所 第 3 工務課 丹羽 幸一

第 57 回北海道開発局空港技術研究会議プログラム

今回は特別講演を含む 4 件の発表がありました。

特別講演では「高松空港の今後の計画について」御講演をいただき、高松空港の将来に向けた具体的な取組として「NEOHENRO 四国ネオ遍路」といった動画(YouTube)による発信、JR や民鉄等の二次交通との連携サービス、空港ビルのリニューアルなど非常に参考となる御講演内容でした。

その後、成田国際空港における東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けた施設整備として、当事者意見を取り入れたユニバーサルデザインへの配慮といったソフト面からアプローチした施設計画のあり方の発表をいただきました。さらに事業実施への課題に関する事例内容として、積雪寒冷地における凍上対策

としてのコンクリート舗装における路床の設計、釧路空港における滑走路端安全区域の整備概要と高盛土に対応した実現性の評価に基づく整備方針についてご発表いただきました。

質疑応答では、積極的な質疑があり、関心の高い内容であったと感じています。(写真 -1)

また、アンケートからは次回の技術研究会議にて講演又は発表して欲しいテーマとして、国内外の空港整備などの提案や本会議の継続を望まれる記載もあるとともに、自らの技術を発表したいと求める方もいらっしゃるなど、改めて本技術研究会議の必要性を感じているところです。(写真 -2)



写真 -1 特別講演の様子



写真 -2 発表の様子

最後に、御多忙の中、本技術研究会議で講演・発表していただきました皆様、並びに聴講にお越しいただいた皆様、改めて感謝申し上げます。